



中世に出逢えるまち

大阪府 河内長野

お土産品 & 体験メニューBOOK



歴史と自然あふれる日本遺産のまち

河内長野

河内長野市は、高野街道をはじめ、大沢街道や天野街道など幾つもの街道が交わっていることから、交通の要衝として古くから人々の往来が盛んでありました。

また、修験道の開祖と言われる役行者や高野山を開いた空海をはじめとする歴史上の重要人物にゆかりのある観心寺や天野山金剛寺、延命寺をはじめとする寺社が現在も残ります。加えて豊かな自然を残す岩湧山は、和歌山～大阪～奈良の境にそびえる葛城の峰々に連なり、現在も修験道の行者が修行を行っています。

このように、豊かな自然と歴史・文化が遺り、今に息づいていることから、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」、「「葛城修験」-里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」の3つの日本遺産に認定されています。



日本遺産

“中世に出逢えるまち”のストーリー

河内長野市は京と高野山を結ぶ街道の中間地にあり、観心寺、天野山金剛寺の2大寺院が隆盛したまちです。街道沿いの白壁の塀、銀色に輝く瓦葺きの屋根、朱・緑・黄色などの鮮やかな柱、優雅で美しいその建物の中は凜とした静けさに包まれ、金色に光り輝く仏像が安置されています。この2大寺院の隆盛により市域では多くの社殿、お堂や仏像が造られました。また、交通の要衝となったことから山城も築かれています。

ここは、悠久の時を超えて千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫であり、まち全体で中世を体感することができるのです。



日本遺産とは、文化庁が認定する地域の歴史的魅力や特色を通じ、文化・伝統を語るストーリーのことです。そのストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを通じて地域活性化を図ります。

日本遺産
ポータルサイト

